

広島サンミラー販売

複雑加工に対応

広島駅のカラーガラス

外国人旅行者が増加する中、全国の主要ターミナル駅で施設を整備する動きが広がっている。再開発が進んでいるJR広島駅では10月29日、南口と北口を高架で結ぶ自由通路や橋上駅舎、新しい商業施設が完成。駅構内のトイレ、柱にはAGC旭硝子のカラーガラスが多数採用され、新しくなった広島駅のにぎわいに貢献している。カラーガラスは全て広島サンミラー販売（広島市安佐南区、中島昭夫社長）が加工し、便器・フック周りの切り欠きなど、複雑な加工に対応した。

広島駅2階の新幹線乗り換え口付近に新設されたトイレの壁面には、「ラコベル」のソフトホワイトが約159平方メートル採用された。中でも男性用トイレは、壁面に施工された「ラコベル」が清潔感があるトイレ空間を演出する。

駅構内に多数ある柱には、カラー合わせガラス「ラミトーン」のブラッ

クが、案内表示を挟んで柱の上部と下部に使われている。

小便器の周囲や、傘用のフック部分は荷物の重みで割れないよう切り欠

く必要があり、複雑な加工が伴う。カラーガラスは色違いが発生する場合があります。全面を同ロットのガラスで貼り合わせる必要もある。特にホワイト、淡色系は色違いが目立ちやすいため注意が必要だ。

中島社長は「ガラスは

見た目の高級感、清潔感があり、拭けばすぐきれいになるのは最大のメリット。広島駅の玄関口なので、この仕事をやらせていただけたのはうれしかった」と喜ぶ。

同社は「ラコベル」のピュアホワイト、クラシ

ックブラック、「マテラック」の大幅在庫しており、短納期の加工に対応している。

同社の大阪支店は立ち上げて10年が経過。高級ブランド店、外資系ホテルなどの大きな物件を受注できるようになってきたという。

中島社長は「当社が生き延びる道は、大板を置いてすぐに切断、加工して届けられるようにやっていくしかない」と語り、中国地区随一の内装用ガラス・鏡の加工体制で、店装・内装工事のニーズに対応する。



広島駅構内のトイレに採用された「ラコベル」